

平成30年度鳥取県立高等学校募集生徒数及び入学者選抜検査内容等一覧表
 <全日制課程>

学 校 名	大 学 科	小学科(コース)	募 集 生徒数	推 薦 入 学 者 選 抜				一 般 入 学 者 選 抜			
				募集人 員(人以 内)	うち県外 生徒(人 程度)	調査書で重 視する教科	検査内容	学力検査 実施教科	傾斜配点の 教科・倍率	調査書の合計 評定と学力検 査の合計得点	その他の 検査内容
鳥 取 東	普 通	普 通	280	-	-	-	-	5教科	無	130:250	面 接
	理 数	理 数									
鳥 取 西	普 通	普 通	280	-	-	-	-	5教科	無	130:250	面 接
鳥 取 商 業	商 業	商 業	190	60	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
鳥 取 工 業	工 業	機 械	38	12	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
		電 気	38	12							
		制 御 ・ 情 報	38	12							
		建 設 工 学	38	12							
鳥 取 湖 陵	農 業	食 品 シ ス テ ム	38	15	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
		緑 地 デ ザ イ ン	38	15							
	工 業	電 子 機 械	38	15							
	家 庭	人 間 環 境	38	15							
	情 報	情 報 科 学	38	15							
青 谷	合 合		114	12	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
岩 美	普 通	普 通	114	22	5	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
八 頭	普 通	普通(探究文科)	240	-	-	-	-	5教科	無	130:250	面 接
		普通(探究理科)									
		普通(総合)									
		普通(体育)	40	20	4	無	面接・作文・ 実技				
智 頭 農 林	農 業	ふるさと創造	80	15	4	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面 接
		森 林 科 学									
		生 活 環 境									
小 計			1,680	252	13						

平成30年度鳥取県立高等学校募集生徒数及び入学者選抜検査内容等一覧表
 <全日制課程>

学 校 名	大 学 科	小学科(コース)	募 集 生徒数	推 薦 入 学 者 選 抜				一 般 入 学 者 選 抜			
				募集人 員(人 以 内)	うち県外 生徒(人 程度)	調査書で重 視する教科	検査内容	学力検査 実施教科	傾斜配点の 教科・倍率	調査書の合計 評定と学力検 査の合計得点	その他の 検査内容
倉 吉 東	普 通	普 通	200	—	—	—	—	5教科	無	195 : 250	面 接
倉 吉 西	普 通	普 通	120	24	—	無	面接・作文	5教科	無	130 : 250	面 接
倉 吉 農 業	農 業	生 物	38	12	2	無	面接・作文	5教科	無	195 : 250	面 接
		食 品	38	—	—	—					
		環 境	38	—	—	—					
倉 吉 総 合 産 業	工 業	機 械	38	15	—	無	面接・作文	5教科	無	195 : 250	面 接
		電 気	38	15							
	商 業	ビ ジ ネ ス	38	15							
	家 庭	生 活 デ ザ イ ン	38	15							
鳥 取 中 央 育 英	普 通	普 通 (普 通)	120	24	—	無	面接・作文	5教科	無	195 : 250	面 接
		普 通 (体 育)	40	20	4		面接・作文・ 実技				面 接・実 技
小 計			746	140	6						

平成30年度鳥取県立高等学校募集生徒数及び入学者選抜検査内容等一覧表
 <全日制課程>

学 校 名	大 学 科	小学科(コース)	募 集 生徒数	推 薦 入 学 者 選 抜				一 般 入 学 者 選 抜			
				募集人 員(人 以 内)	うち県外 生徒(人 程 度)	調査書で重 視する教科	検査内容	学力検査 実施教科	傾斜配点の 教科・倍率	調査書の合計 評定と学力検 査の合計得点	その他の 検査内容
米 子 東	普 通	普通(生命科学)	40	-	-	-	-	5教科	無	130:250	面接
		普通(普通)	280								
米 子 西	普 通	普 通	320	-	-	-	-	5教科	無	130:250	面接
米 子	合 合		152	38	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面接
米 子 南	商 業	ビジネス情報	114	45	-	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面接
	家 庭	生活文化(環境文化)	18	7							
		生活文化(調理)	20	8							
米 子 工 業	工 業	機 械	38	15	-	無	口頭試問 ・作文	5教科	無	195:250	面接
		電 気	38	15							
		情 報 電 子	38	15							
		環境エネルギー	38	15							
		建設(土木)	19	7							
		建設(建築)	19	7							
境	普 通	普 通	200	50	2	無	面接・作文	5教科	無	195:250	面接
境港総合技術	水 産	海 洋	38	10	-	無	面接・作文	5教科	無	260:250	面接
		食品・ビジネス	38	10							
	工 業	機 械	38	10							
		電 気 電 子	38	10							
	福 祉	福 祉	38	10							
日 野	合 合		76	12	5	無	面接・作文	5教科	無	260:250	面接
小 計			1,600	284	17						
合 計			4,026	676	36						

平成30年度鳥取県立高等学校募集生徒数及び入学者選抜検査内容等一覧表
 <定時制課程・通信制課程>

<定時制課程>

学 校 名	大学科	小 学 科 【 学 部 】	募 集 生徒数	推 薦 入 学 者 選 抜				一 般 入 学 者 選 抜			
				募集人員 (人以内)	うち県外 生徒 (人 程度)	調査書で重 視する教科	検査内容	学力検査 実施教科	傾斜配点の 教科・倍率	調査書の合計 評定と学力検 査の合計得点	その他の 検査内容
鳥 取 緑 風	総 合	【午前】	70	14	—	無	面接・作文	3教科 国語と他の 4教科から 志願者が2 教科を指定	無	150:150	面 接
		【午後】									
		【夜間】	20	4	—						
倉 吉 東	普 通	普 通	40	—	—	—	—	3教科 国語と他の 4教科から 志願者が2 教科を指定	無	150:150	面 接
米 子 東	普 通	普 通	30	—	—	—	—	3教科 国語と他の 4教科から 志願者が2 教科を指定	無	150:150	面 接
米 子 白 鳳	総 合	【午前】	60	6	—	無	面接・作文	3教科 国語・数 学・英語	無	150:150	面 接
		【午後】									
小 計			220	24							

<通信制課程>

学 校 名	大学科	小 学 科	募 集 生徒数	選 抜 方 法
鳥 取 緑 風	普 通	普 通	約 80	面接・書類審査
米 子 白 鳳	普 通	普 通	約 80	面接・書類審査
小 計			約160	

＜調査書の合計評定＞の算出方法について

調査書の合計評定は、学力検査を実施する教科の評定に対し、学力検査を実施しない教科の評定を2倍して算出します。

（例）全日制課程で受検教科数が5教科の場合の合計評定

第3学年で学習する[※]各教科の調査書の絶対評価（5段階評定）

$$\underline{5点} \times \underline{5教科} \times \underline{3} + \underline{5点} \times \underline{4教科} \times \underline{6} = 195$$

学力検査を実施する教科数 学校が決めた倍率 調査書の合計評定

学力検査を実施しない教科数

学力検査を実施しない教科の評定は実施する教科の倍率に対して必ず2倍する。

※各教科とは、「国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語」をいう。

（例）全日制課程で受検教科数が5教科の場合の合計評定

$$\begin{aligned} 5点 \times 5教科 \times 2 + 5点 \times 4教科 \times 4 &= 130点 \\ 5点 \times 5教科 \times 3 + 5点 \times 4教科 \times 6 &= 195点 \\ 5点 \times 5教科 \times 4 + 5点 \times 4教科 \times 8 &= 260点 \end{aligned}$$

（例）定時制課程で受検教科数が3教科の場合の合計評定

$$5点 \times 3教科 \times 2 + 5点 \times 6教科 \times 4 = 150点$$

＜学力検査の合計得点＞の算出方法について

各教科の配点は50点です。学力検査の合計得点は、傾斜配点をしない場合、5教科で250点満点（50点×5教科）となります。

「調査書の合計評定」と「学力検査の合計得点」の比率について

「調査書の合計評定」と「学力検査の合計得点」の比率は、8：2から2：8の範囲内としています。

（例）「調査書の合計評定」：「学力検査の合計得点」のおよその比率

$$\begin{aligned} 130 &: 250 = 3.4 : 6.5 \\ 195 &: 250 = 4.4 : 5.6 \\ 260 &: 250 = 5.1 : 4.9 \end{aligned}$$

＜鳥取県立高等学校入学者選抜における口頭試問、小論文検査の趣旨及び実技検査内容一覧＞

【全日制高等学校の推薦入試における口頭試問検査の趣旨】

学 校 名	大学科名	小学科（コース）	推薦入試
米 子 工 業	工 業	機 械 電 気 情 報 電 子 環 境 エ ネ ル ギ ー 建 設 （ 土 木 ） 建 設 （ 建 築 ）	工業高校にふさわしい意欲や興味、関心等を把握し、中学校における基礎的な学習内容の理解の状況を見る。

【全日制高等学校の実技検査内容】

学 校 名	大学科名	小学科（コース）	推薦入試	一般入試
八 頭	普 通	普 通 （ 体 育 ）	<p>下記の実技種目の中から一つ選択する。</p> <p>＜男子＞ 陸上競技・バレーボール・サッカー・柔道・剣道・硬式野球・ホッケー</p> <p>＜女子＞ 陸上競技・バレーボール・柔道・ホッケー</p> <p>※ただし、県外志願者は、ホッケー（男子・女子）・柔道（男子）・剣道（男子）の中から一つ選択する。</p>	<p>下記の実技種目の中から一つ選択する。</p> <p>＜男子＞ 陸上競技・バレーボール・サッカー・柔道・剣道・硬式野球・ホッケー・一般運動種目</p> <p>＜女子＞ 陸上競技・バレーボール・柔道・ホッケー・一般運動種目</p>
鳥取中央育英	普 通	普 通 （ 体 育 ）	<p>＜体力診断＞ 反復横跳び、立ち幅跳び、握力、上体起こし、長座体前屈</p>	<p>＜体力診断＞ 反復横跳び、立ち幅跳び、握力、上体起こし、長座体前屈</p>

入学志願者の選抜のための面接及び口頭試問実施要領

1 趣 旨

入学志願者全員に対して、面接又は口頭試問のいずれかによる検査を実施することで、学校、学科又はコースに対する関心、目的意識、学習意欲、適性等を把握する。

2 実施方法等

各高等学校長は、校長を委員長とした面接又は口頭試問実施委員会を設置し、その意見を聞いた上で面接及び口頭試問の方式、時間、質問内容、評価基準等の実施方法を定める。

なお、口頭試問は、推薦入学者選抜においてのみ実施することができることとし、その口頭試問においては、学校、学科又はコースに対する理解の状況や、中学校等における基礎的・基本的な学習内容の理解の状況等をみることができるとする。

3 留意事項

(1) 志願者が落ち着いて答えられるように、和やかな雰囲気の中で面接又は口頭試問ができるよう配慮する。

(2) 検査員の数は、一検査場につき3名以上を原則とする。

なお、検査員は十分な意思統一を図り、面接及び口頭試問が公平に行われるよう配慮する。

(3) 質問事項は、志願者が答えやすいものとなるよう精選するとともに、質問の仕方にも十分留意し、いたずらに志願者を不安がらせたり、動揺させたりすることのないよう配慮する。また、検査に当たっての配慮の対象でなくとも、吃音等により話したり聞いたりするのに配慮を要する志願者にも、適切な対応をとる。

なお、次のことについては質問しないよう留意する。

ア 志願者の思想、信条及び容姿に関すること。

イ 志願者の家庭状況及び生活環境に関すること。

ウ 学力検査に関すること。

エ 長期欠席者についてはその理由に関すること。

(4) やむを得ない事情で検査時刻に遅刻した志願者には、その者の検査時刻を遅らせるなど臨機の措置をとる。

(5) 当日、やむを得ない事情で検査を受けることができなかった志願者については、中学校長を通じて本人に改めて検査日時を通知する。

この場合、志願者は、やむを得ない事情があったことを証明するに足る書類を中学校長を通じて志願先高等学校の校長に提出しなければならない。

入学志願者の選抜のための作文及び小論文実施要領

1 趣 旨

入学志願者に対して、作文又は小論文のいずれかによる検査を実施することで、学校、学科又はコースに対する関心、目的意識、学習意欲等を把握する。

2 実施方法等

各高等学校長は、校長を委員長とした作文又は小論文実施委員会を設置し、その意見を聞いた上で、作文及び小論文のテーマ、評価基準等の実施方法を定める。

なお、小論文は、推薦入学者選抜においてのみ実施することができることとし、その小論文においては、与えられたテーマ、課題文及び資料に対して自分の考えをまとめ、筋道を立てて表現する力をみることができることとする。

3 留意事項

(1) 以下のようなテーマとならないよう留意すること。

ア 志願者の思想、信条に関すること。

イ 志願者の家庭状況及び生活環境に関すること。

ウ 学力検査に類するような専門的な知識・教養を問う内容。

ただし、ウについて、小論文においては、原則として中学校学習指導要領に示された範囲内で、発展的・応用的な内容のテーマ等は可能とする。

(2) やむを得ない事情で検査時刻に遅刻した志願者には、その者の検査時刻を遅らせるなど臨機の措置をとる。

(3) 当日、やむを得ない事情で検査を受けることができなかった志願者については、中学校長を通じて本人に改めて検査日時を通知する。

この場合、志願者は、やむを得ない事情があったことを証明するに足る書類を中学校長を通じて志願先高等学校の校長に提出しなければならない。

入学志願者の選抜のための実技検査実施要領

1 趣 旨

特色ある学科・コースの入学志願者に対して、その資質を的確に評価できるよう、学校、学科又はコースの特性に応じた能力・適性を把握するために実技検査を行う。

2 実施方法等

各高等学校長は、校長を委員長とした実技検査実施委員会を設置し、その意見を聞いた上で実技検査の検査内容、評価基準等の実施方法を定める。

3 留意事項

- (1) 検査は、中学校で学習した基礎的・基本的な事項について行う。
- (2) やむを得ない事情で実技検査時刻に遅刻した志願者には、その者の実技検査時刻を遅らせるなど臨機の措置をとる。
- (3) 当日、やむを得ない事情で実技検査を受けることができなかった志願者については、中学校長を通じて本人に改めて実技検査日時を通知する。

この場合、志願者は、やむを得ない事情があったことを証明するに足る書類を中学校長を通じて志願先高等学校の校長に提出しなければならない。